

ルバーブの軟化栽培における掘り取り時期、 軟化温度及びジベレリン処理の影響*

成 松 次 郎

The Influence of Digging Time, Sprouting Temperature and
Gibberellin Treatment on the Forcing Culture of Rhubarb.

Jiro NARIMATSU

緒 言

ルバーブ (*Rheum rhaponticum* L.) は、タデ科に属する大型の多年生植物である。形状としては、多数の根出葉を着生し、葉は有柄葉である。食用部は葉柄であり、この葉柄は緑色を基本色とし、葉柄下部は暗赤色を示す。

ルバーブの栽培法の一つに、冬に根株を掘り取り、軟化施設内で生育させる栽培がある。軟化栽培は通常、暗黒下で行うため、葉緑素が形成されず、そのため葉柄に含有するアントシアンの発現によって葉柄はほぼ全体に赤色を呈する。この特性は、ルバーブの用途の一つであるジャムの色調を鮮やかな桃色ないし赤色の製品に仕上げる。

このように、軟化栽培は冬から春にかけての生産が可能となるばかりでなく、色調において高品質の材料を供給できるという特徴がある。

ルバーブの研究は北欧や北米を中心に盛んであり、MARSHALL[®]によれば、ルバーブと*Rheum*属に関する報告は3,385編にも上る。我が国では、同属の薬用大黄 (*Rheum palmatum*, *R. coreanum* など) について、薬用成分に関

する報告は多数あるが、食用ルバーブの栽培に関する研究は見当たらない。

本研究は、我が国におけるルバーブの栽培、とくに軟化栽培の確立を目的とするものである。本報では、休眠の季節変化を調べ、実用栽培における休眠打破及びその後のほう芽を促進する方法を検討した。

本研究を進めるに当たり、筑波大学篠原温博士には貴重なご指導及びご助言をいただくとともに、ご校閲を賜った。記して感謝する。

材料及び方法

1. 掘り取り時期と軟化温度

(1) 材料の育成と栽培方法

品種'Myatt's Victoria' (アメリカ合衆国産) の種子を1985年3月13日に、直径12cmのポリポットに播種し、温室内で育苗した。5月7日に、直径24cmの素焼鉢に移植し、実験に使用するまで鉢は屋外において栽培した。12月に入り、葉部が枯れるのを待って、'85年12月25日、'86年1月24日及び2月23日の3回に分けて掘り取った。掘り取り時に、根株がなるべく断根しないように土を除き、水洗後47cm×30cmのバットにパーミキュライトを深さ10cmになるように入れ、10株づつ植えて、各設定温度の恒

* 本報告の一部は昭和62年度園芸学会秋季大会において発表した。